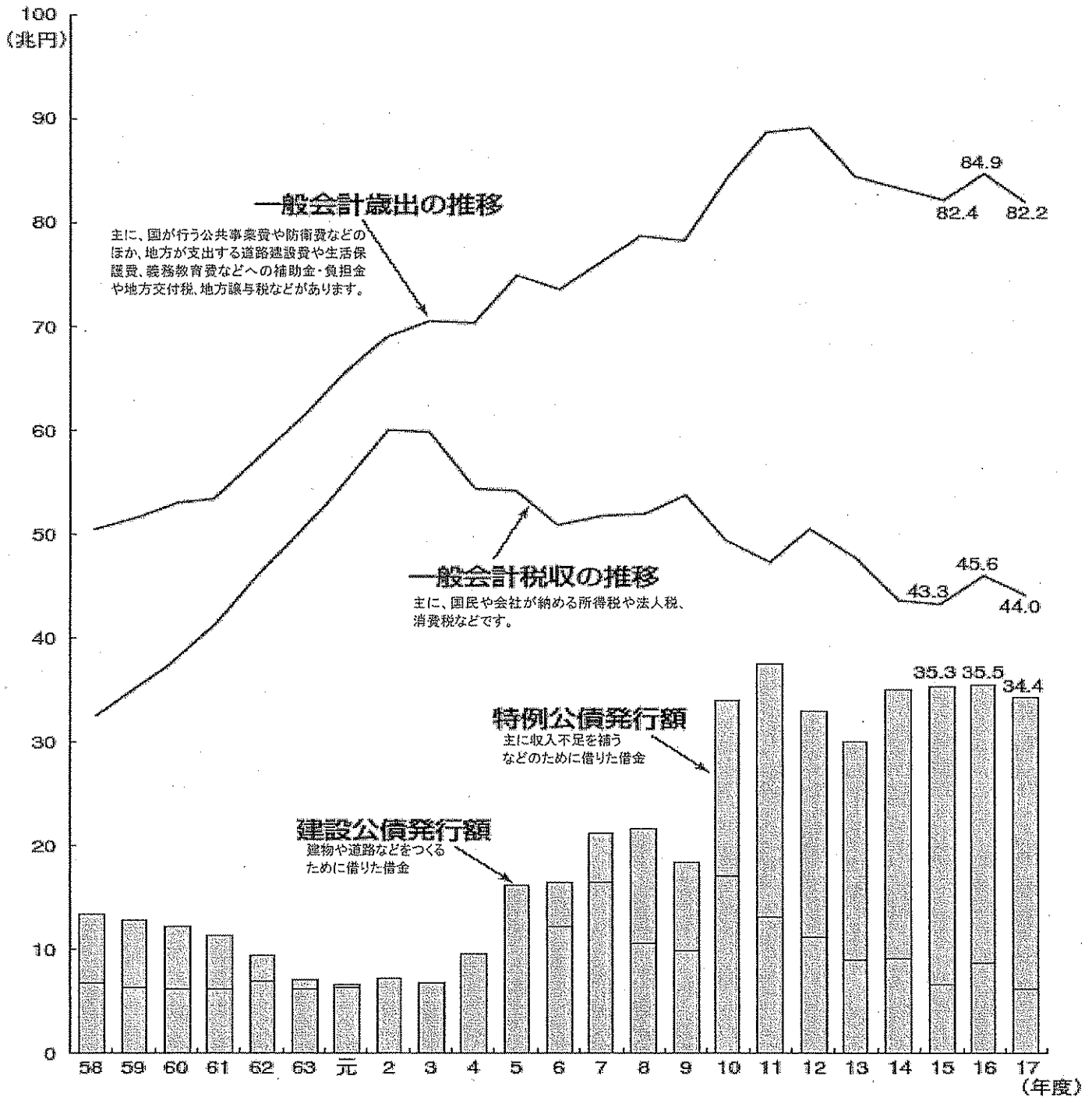


●国(政府)の予算と国債・税収の推移



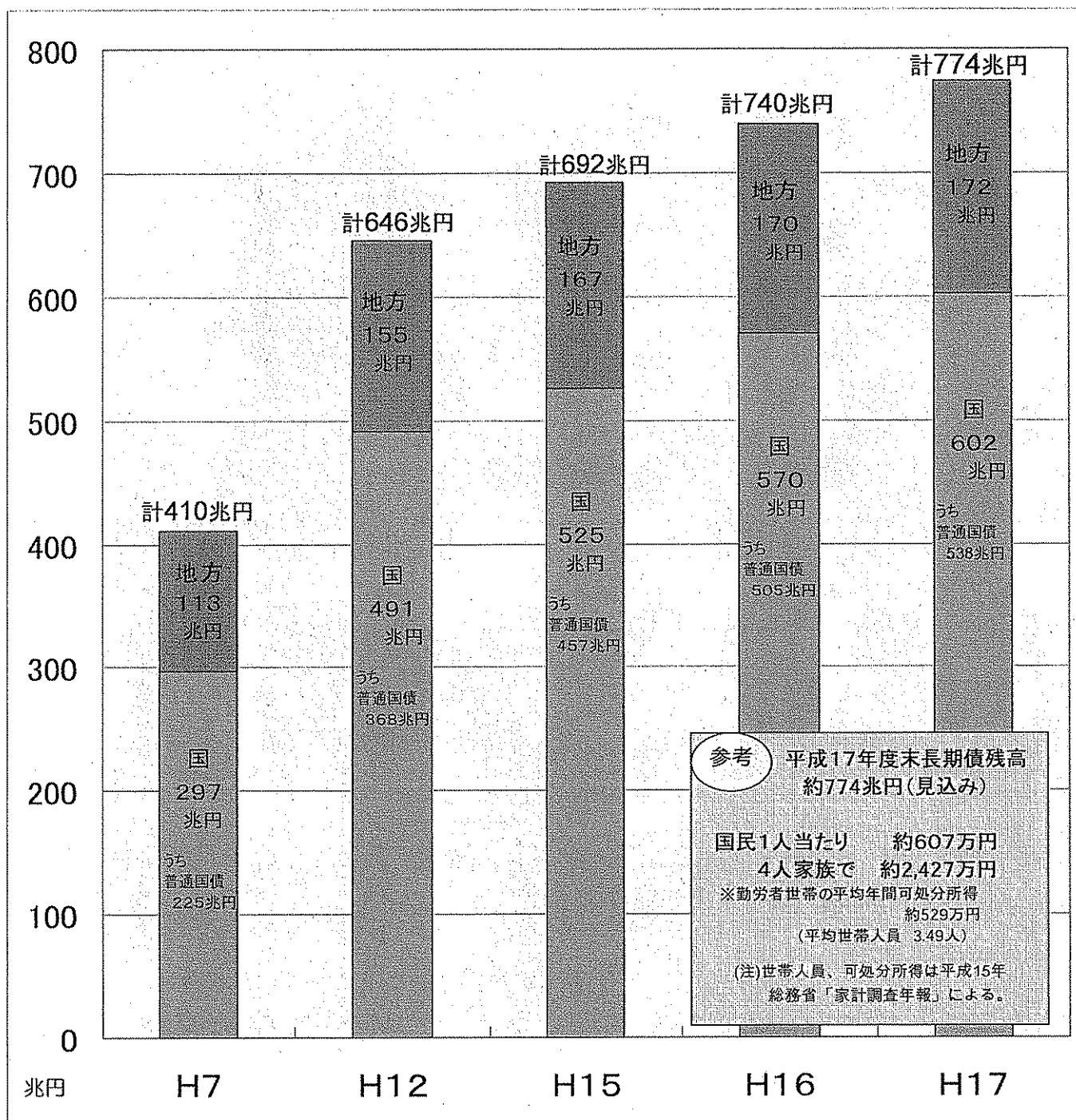
一般会計における歳入と歳出には大きなギャップ(財政赤字)があり、赤字分は国債の発行(借金)でまかなわれ、平成17年度予算では一般会計歳入に占める税収の割合は5割程度(53.5%)にとどまっています。

出典：財務省

●国(政府)と地方(自治体)の長期債務残高

<国:普通国債残高+財政投融资資金特別国債残高>

出典:財務省

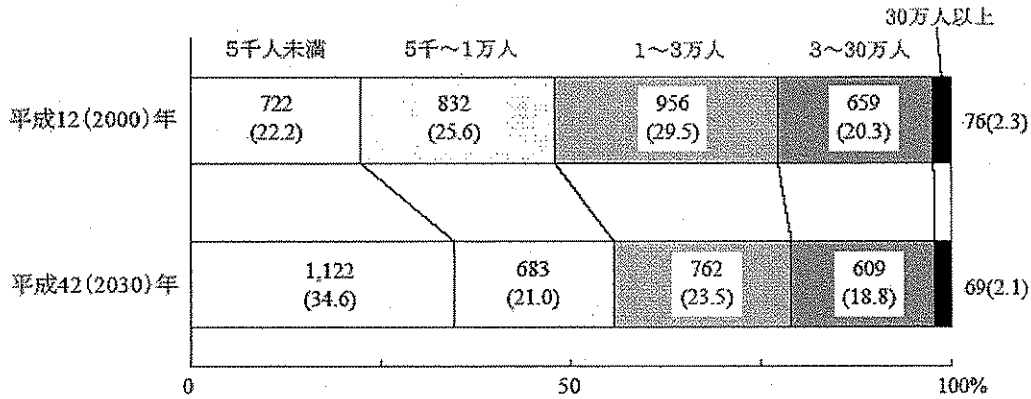


平成17年度末の国及び地方の長期債務残高(公債残高、借入金残高等の国の長期債務と地方の債務残高とを合計したもの)は774兆円程度に上ると見込まれています。

出典:財務省

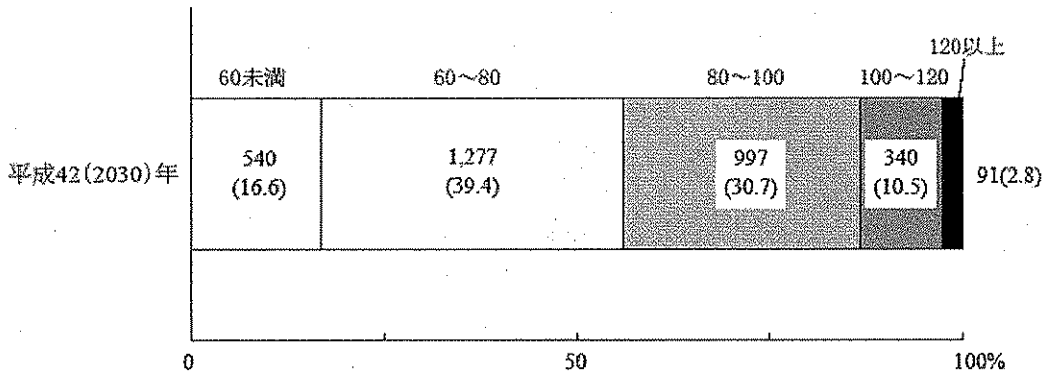
日本の将来推計人口

- 2030年には、3分の1以上の市町村が人口規模5千人未満に
- 2030年には117,580千人(10,161千人減)
- ほとんどの市町村で人口が減少、老年人口が増加



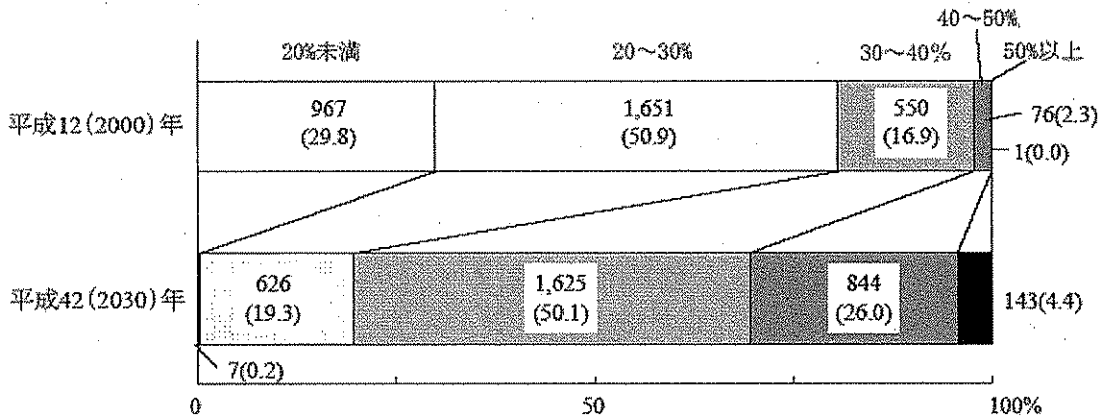
図Ⅱ-1 人口規模別市区町村 平成12(2000)年、平成42(2030)年

注1 グラフ中の数字は自治体数で括弧内はその割合(%)
注2 割合については四捨五入して表記したため合計が100にならない



図Ⅱ-2 人口指数別市区町村(平成12年=100とした場合) 平成42(2030)年

注 グラフ中の数字は自治体数で括弧内はその割合(%)



図Ⅱ-3 老年人口割合別市区町村 平成12(2000)年、平成42(2030)年

注1 グラフ中の数字は自治体数で括弧内はその割合(%)
注2 割合については四捨五入して表記したため合計が100にならない

浄化槽による排水中の汚濁物質の減量化

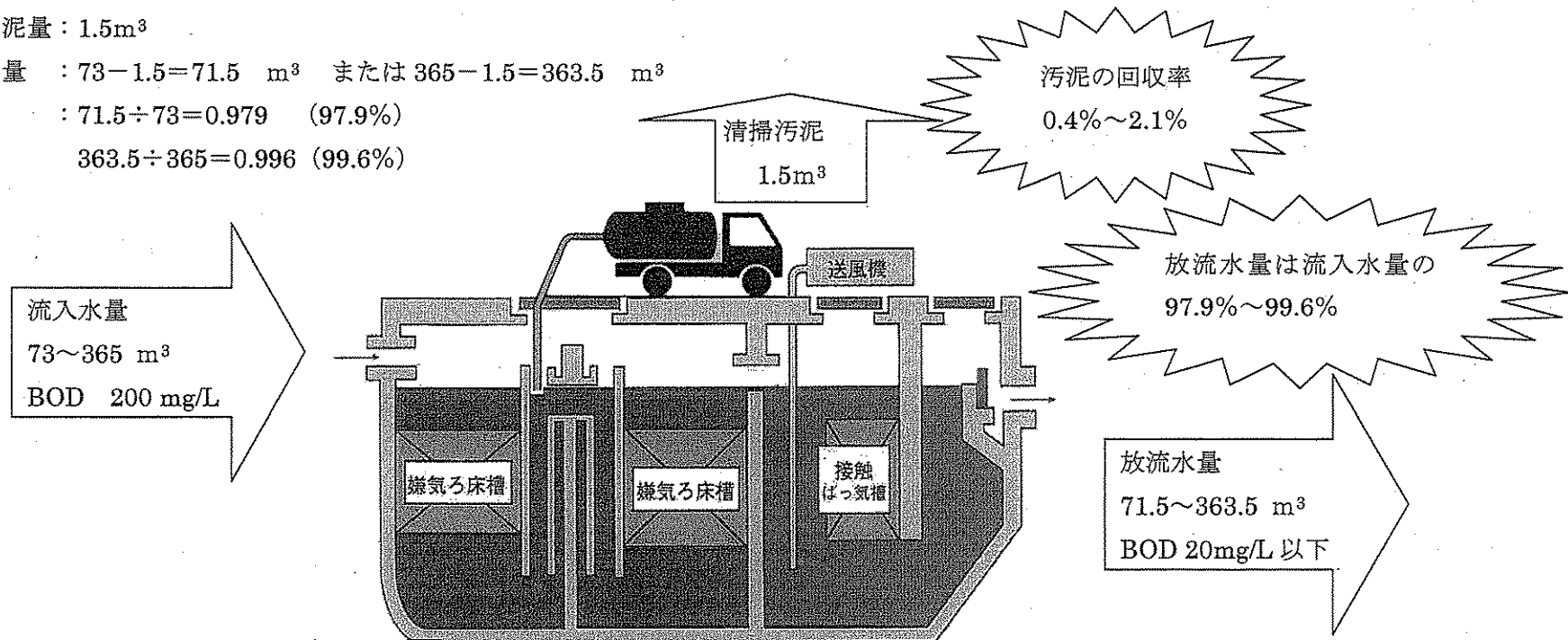
算定条件 小型家庭用浄化槽 5人槽 (実使用人員 1人または5人)
 嫌気ろ床接触ばっ気方式 (構造例示型)
 流入水量の原単位 $0.2\text{m}^3/\text{人}\cdot\text{日}$
 清掃は年1回で嫌気ろ床槽1・2室全量抜き (1.5m^3)

流入水量 : $0.2\text{m}^3/\text{人}\cdot\text{日}\times 1\text{人}\times 365\text{日}=73\text{ m}^3$ (実使用人員1人の場合)
 $0.2\text{m}^3/\text{人}\cdot\text{日}\times 5\text{人}\times 365\text{日}=365\text{ m}^3$ (実使用人員5人の場合)

清掃汚泥量 : 1.5m^3

放流水量 : $73-1.5=71.5\text{ m}^3$ または $365-1.5=363.5\text{ m}^3$

割合 : $71.5\div 73=0.979$ (97.9%)
 $363.5\div 365=0.996$ (99.6%)



浄化槽の設置基数の推移

